



令和4年度 弥栄小便り 第06号

1, 『弥栄村誌』を読みながら

昭和の大合併で、昭和31年8月1日に弥栄村が誕生しました。その安城村と杵束村との合併協議を始め、様々な動きについても詳細な記述があります。各地区住民の当時の思いや帰属意識といったものがうかがえ、興味深く読みました。

近いうちに、「十国トンネル」上にある旧道や「大坪トンネル」横の旧道などにも足を運んでみたいと思います。

2, 島根県へき地教育研究大会〔浜田大会〕に向けて

来る10月26日(水)、本校と弥栄中学校・波佐小学校を会場に、島根県へき地教育研究会浜田大会が開催されます。この大会は、島根県のへき地教育の充実・振興を目的に行われるものです。本校での公開授業は、3・4年生の算数で「かけ算の筆算(3年生)」と「わり算の筆算(4年生)」を題材に行います。コロナ禍の不透明な状況下ではありますが、できるだけ多くの参加者を受け入れる準備を粛々と進めています。

複式学級の場合、島根県では「AB年度方式」と称し、2学年の授業内容を半分ずつ混ぜ合わせた形で進めています。「2年間で2学年の授業内容を履修していこう。」という考え方です。ですが、算数はそうはいきません。前学年の授業内容が理解できていなければ、次学年の授業内容に入ることができないからです。ということは、学級としてはひとつでも授業は学年別に行わなければなりません。しかも、授業者は一人しかいません。苦肉の策ではありますが、「わたり」の授業を行っています。授業者が二つの学年の間を「行ったり来たり」して教える様子が、渡り鳥の「わたる」行為に似ているのでその名がついたとか・・・その「わたり」を含め、効果的な授業のあり方を求め実践を重ねて参ります。

